

図の上部には、次の文がある。

市川團十郎

日の下開山日本に二人

と八ない 横綱

尾上菊五郎

当時の上手世話狂言なら

あたりはづさぬ 弓取

市川左團次

人気につれて鳴ひどくねも

高しまの 櫓太鼓

助高屋高助

立役より女形がうつりの

よい 顔触

市川九蔵

腕前ハたしかなれど一人

でハ出来ぬ 土俵入

坂東家橘

いやみハなけれど今一いき

入れてほしい 力水

片岡我童

轟慣ときけば猫も酌子も

のがさず 八込

市川権十郎

なかりけりといふ金があるのハよい

ひぬきを沢山に 取組

中村時蔵

肩を怒らしたり手をふつたり
して受させる 赤儒絆

中村寿三郎
土俵際を踏はづしても
どつさりと金が 溜り

市川海老蔵
関取のうしろに生涯ついて
居さうな 太刀持

市川八百蔵
うしろにハ関取がついて居る
しつかりとやりたまへ 露はらひ

市川寿美蔵
親方の真似ハちとうるさい
当分のうち 預り

尾上多賀之丞
一寸目にはつけどいかついゆゑ
色気の薄い 板番附

河原崎国太郎
ぱつとハせぬがなか／＼よく
狂言を まハし

岩井紫若
少し騒々しいやうなれど
しまりのある 木戸

坂東志づ調
稽古ハつんであれどモウ
少しおしい 花触

岩井松之助

出来不出来のあるうちが
楽しみもある 勝負附

澤村源之助
今がかんじん骨を折て
売込たまへ 札場

澤村田之助
顔も芸も近ごろハ
ばけかゝつた 化粧紙

中村福助
鼻眞につれて芸も
ぐん／＼上る 軍配団扇

尾上菊の助
芸道より外へ気を散さぬやうに
心がけたまへ是からが 花道

中村芝翫
立派で花やかゆゑどうしても
下にハおかれぬ 天幕

中村仲蔵
功成り名遂た年寄株の
居所ハ動かぬ 四本柱